

むくしま県人会だより

第 18 号
平成 20 年 8 月
福島県人会
北海道連合会

会長あいさつ

会長 長谷川 顕



漸く夏らしい季節がやってまいりました。

オホーツク海地方の冷たい風も東方に抜けきり、暖かい日が続いておりますが、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

さて、去る五月二十四日・二十五日に網走にて開催されました「福島県人会北海道連合会総会」には大勢の参加をいただき、美幌県人会の献身的な協力により、

盛會裏に終了いたしましたことを、先ずもってご報告いたします。美幌県人会の皆様には心より厚くお礼申し上げます。大変有難うございました。

当日は公務多忙の中、佐藤雄平福島県知事ご夫妻、遠藤忠一福島県議会議長ご夫妻のご臨席を賜り、大変有意義な総会を開催することができましたことに感激しております。ことに、美幌町の皆様には、土谷耕治美幌町長、小林勲美幌町議会議長、高橋文明道議会議員等、町を挙げての歓迎には感動し、感謝を申し上げます。ところでございます。

本年は母県におきましては戊辰戦争百四十周年、北方警備二百周年にあたり、去る七月四日、会津若松市の鶴ヶ城公園本丸において「会津藩 蝦夷地を守る」をテーマに、北方警備二百年記念、鶴ヶ城天守閣企画展が開幕され、稚内市長、利尻町長、利尻富士町長等出席のもとセレモニーが行われま

した。

その後、「歴史シンポジウム in 会津—会津藩北の守備(まもり)へ」が開かれ、「会津藩のルネッサンス—田中玄宰の改革と北方警備の精神」と題し、直木賞作家中村彰彦氏の講演があるなど、大変有意義な記念事業に私を始め、稚内県人会会員四名も出席いたしました。

来る八月末日には、稚内市及び利尻町、利尻富士町の墓参に訪れるとのことで、出席者は百二十名を予定しているようです。

会津若松市民の祖先に対する敬愛の念を知り、ただ尊敬をいたすばかりです。

最後になりますが、来年の総会は札幌県人会の皆様にお世話になることになりました。

すでにホテル等の手配も済まされ、札幌の奥座敷と言われる定山溪において開催されると聞いております。

来年も是非、会員の皆様の元気な笑顔に再会できますことを念じながら楽しみにしております。

それでは、会員皆様のご健闘と各県人会のますますのご発展を祈念し、ご挨拶に代えさせていただきます。

会員通信

第三十六回福島県人会
北海道連合会総会回顧録

美幌町福島県人会 打地健一

オホーツク海を張り巡らした流水の海明けも早く、道東の地に春到来となった五月二十四・二十五日、網走市において、第三十六回福島県人会北海道連合会総会が、福島県知事御夫妻及び福島県議会議長御夫妻をお招きし、会員の皆様百五十名参加のもと開催されました。

昨年の紋別市における第三十五回総会で、次回開催が美幌町と決まり、準備委員長として半年前から準備を進めてきました。

平成十年に美幌町で第二十六回総会を開催した際、二百名近い参加者が宿泊できる施設がなく、町内の民宿等を利用したのですが、会員の皆様に御不便をおかけする結果となったため、今回は全員が同じ場所に宿泊できるよう網走湖荘にお願いしたところ、快く引き

受けていただきました。

ホテルとの交渉、総会や懇親交流会の会場選定、記念撮影の手配、記念品やおみやげの準備など、何度か現場での打ち合わせを行い、ようやく当日となりました。

昨日までの雨模様が一転して連合会総会にふさわしい天気となり、各県人会の皆様と一年ぶりに顔を合わせ、あちこちで話はずさんでいたことは言うまでもありません。



懇親会にて知事と（美幌町）

総会で次回開催地が札幌市に決定され、来年札幌市で逢うことを約束しながら懇親交流会も盛会裏に終了しました。同じ県人会の仲

間で美酒に酔いしれている人たちも見受けました。

最後に、これからも一致団結して県人会の発展に寄与することを誓うとともに、協力していただいた北海道事務所の皆様と出席された各県人会の皆様改めて感謝申し上げます。

ありがとうございます。

祖父母の出身地は原ノ町

旭川福島県人会 原武ふみえ

去る五月二十四日、「福島県人会北海道連合会総会・懇親会」へ、旭川福島県人会の皆さんの仲間に入れていただき、初めて出席する機会に恵まれた。

「『国衆』が同じなら、他人でも親戚、身内のようなものだった」。富山県出身の両親を持つ母親が話していた言葉である。

それは互いに励まし合って生活した開拓時代の話だと思っていたが、その言葉が甦るような福島県にゆかりのある人たちの集いの中で過ごすことのできたひとときであった。

私の祖父母は大正二年（一九一三年）、福島県原ノ町（現南相馬市）より、上川管内南部の中富良

野村へ入植している。「馬も飼えない農家は続けられなかった」、父がそう話していたと母から聞いている。育った土地を一度離れてしまうと、根の切れた浮き草のようになるのだろうか。独身時代の父は、樺太（現サハリン）まで働きに出かけている。

祖父の顔は知らない。父は私が十歳の時、祖母は二十歳の時まで生きていた。幼いころ聞いていた福島に関わる祖母の小さな話は面白かったが、出身地や生い立ちについて関心もなく、聞くこともなく死なれてしまった。

私は、父方の姓を継いでいる。祖父母の出身地に関心を持ったとき、周囲に福島県に住んでいるはずの親族を知る者は誰も居ないことに気がついた。北海道入植三代目の私が調べておかなくてはルーツが消えてしまう。現に子どもたちは「道産子になり切っているよ」と言っている。

福島に住む親族の所在を探し続けて三十年、船引町の本家を中心として、父方の人々に出会うことができたのは平成三年のことである。

次の年、福島の一行十七名が道北美深を訪問。美深での交流の集いは、ローカル紙の取材を受けて

紹介されている。

祖父母は一度も生まれ故郷へ里帰りしたことはなかった。望郷の想いを受け継いだ私に、福島は懐かしく、温かいのである。



旭川駅に到着した福島県下に住む原武家一行（平成4年6月13日）

OBからのお便り

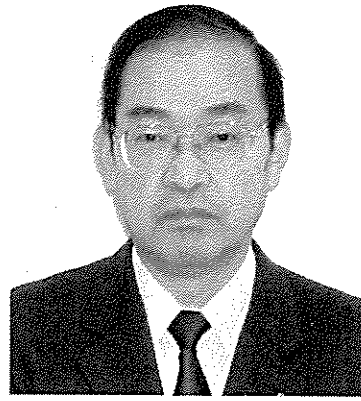
北海道の思い出

第十六代所長・第十三代次長

津田 正美

皆さん、お元気ですか。福島に戻ってから、早いもので二年目

になりました。昨年は本庁におりました。一年で異動になりました。今は須賀川市にある県中保健福祉事務所（福祉事務所と保健所が一緒になった事務所です）に勤めております。毎日、福島から新幹線で通勤していますが、歩く距離も半端じゃないので三ヶ月で三キロ痩せました。



北海道では平成十六年度が次長として、十七・十八年度は所長として勤務しました。この間皆様方には公私ともお世話になりました。誠にありがとうございます。おかげさまで、楽しく仕事をすることができました。

勤務した三年間を振り返ってみますと、様々なことが思い出されます。

まず、連合会の総会ですが、一年目の開催地は層雲峡温泉でし

た。県人会の皆様のおふるさとを想う心と層雲峡の景色に感動しました。三年目は苫小牧市。苫小牧県人会は初開催でしたが、持ち前の組織力・企画力に加え、きめ細かな心遣いを発揮し大成功でした。なお、二年目の稚内は、所長でありながら、開催の二ヶ月前に稚内市の歩道で転倒、骨折し、市立病院（窓から遠くに樺太が見えました）に入院し欠席しました。改めて皆様方にお詫び申し上げます。ひとりで入院していた私を励ましてくださった稚内県人会の皆様にお礼申し上げます。

仕事以外では、単身赴任で時間はたっぷりありましたので、休日には道内各地を廻りました。福島県ゆかりの地や会津藩士の墓（利尻島、焼尻島、稚内市、標津町、別海町、紋別市等にありますが）はほとんど行ったと思います。福島の先人たちの血のじむ努力が北海道各地の発展に寄与したという輝かしい足跡を見る思いがしました。

また、北海道には風光明媚なところが数多くありますが、もう一度見てみたい風景をあげるとすれば、車なら天塩から稚内に

向かう海岸線の道路からの景色でしようか。利尻島が見えて本当にきれいです。汽車なら釧路から根室に向かう根室本線の車窓からの風景がいいですね。湿原の中を走っているようです。このほかにも心に残っている景色がたくさんありますので、これからは毎年、家内と一緒に北海道を旅したいと思っています。皆さんに、又お会いできる日を楽しみにしています。

連合会の活動

平成十九年度第二回役員会

平成二十年一月二十二日

札幌市「KKRホテル札幌」

平成二十年度第一回役員会

平成二十年五月二十四日

網走市「ホテル網走湖荘」

平成二十年度連合会総会

第三十六回連合会総会は、五月

二十四日にホテル網走湖荘を会場に、佐藤雄平知事御夫妻をはじめ、遠藤忠一議長御夫妻、北海道知事



楽しかった懇親会の風景

（三橋寛之網走副支庁長代理出席）を来賓としてお迎えし、総勢百四十六名が参加して盛大に開催されました。席上、知事感謝状が千葉常雄さん（別海町）に、連合会長感謝状が大竹啓さん（美幌町）をはじめ十名の方に贈呈されました。なお、次期開催地である札幌県人会の高橋成子副会長からあいさつがあり、来年の再会を誓い合っていました。

新会員紹介

札幌福島県人会

鈴木勇三（すずき ゆうぞう）中島村
七海邦光（ななうみ くにひこ）旧原町市
芳賀喜夫（はが よしお）郡山市
弁野 忍（べんの しのぶ）いわき市

苫小牧福島県人会

若松宣子（わかまつ のぶこ）福島市
大槻正吾（おおつき しょうご）保原町
岡村亮子（おかむら りょうこ）二本松市
角田博文（つのだ ひろふみ）会津若松市
江井重義（えない しげよし）双葉町

旭川福島県人会

原武ふみえ（はらたけ ふみえ）旧原町市

母県動向

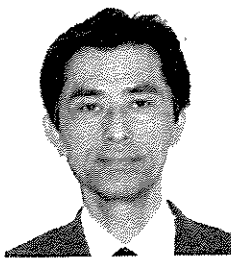
「ふるさとふくしま応援志隊」と
「あつたかふくしま観光交流大使」
を募集中

福島県では、ふるさと福島に熱い思いを持ち、交流やPRに御協力いただける方を募集しています。協力可能な方、またはお問い合わせは、福島県北海道事務所までご連絡ください。

ふるさとふくしま応援志隊様々な分野で活躍されている方で、福島県内の学校や公民館等での講演・公演等が可能の方。活動に際しての両者間の調整を福島県が行います。

あつたかふくしま観光交流大使 お住まいの地域や職場で、福島県の観光や物産のPRのできる方。名前と県内観光地の写真が入った名刺（一人につき百枚）と観光パンフレットをお送りします。

新任職員紹介

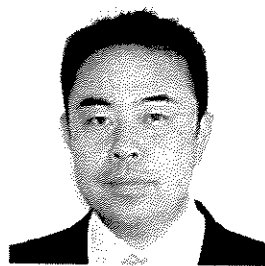


次長 飯田純也
出身 いわき市

これまで園芸関係の生産振興や技術支援に携わってきました。こちらには単身赴任かと思いましたが、北海道の魅力のおかげか、

妻と息子も付いて来てます。

札幌で暮らしてみても、公園の多さと広さに感心し、植生の違いや花色の美しさなど、福島では見られない景観を楽しんでいます。県人会の皆様には、今後、様々な場面でお世話になるかと思えますので、よろしく願います。



副主査 野崎武統
出身 郡山市

五月にお世話になりました県人会総会は、福島県人の結びつきの強さを感じるとともに、県人会の皆様方から多くの激励と御助言をいただき、北海道での勤務における大切なステップとなりました。改めてお礼申し上げます。

この機会に北海道をあちこち回り、福島県との関わりについて深めたいと思います。

これまでは主に道路行政に携わって来ましたが、道がみんなの交流の基礎であるように、皆様方の交流の架け橋になればと思っております。

編集後記

北方警備に始まった北海道と福島県の交流が今年で二百年。現在、福島県の市町村と姉妹都市関係にある道内自治体は四市町、会津若松市とのゆかりの地交流が十四市町と意外に少なく感じますが、大切なのは個人どうしや民間レベルでの交流です。県人会の皆さんの活動により、これからも北海道と福島県の絆が続きますことを期待いたします。

「ふるさとふくしま応援寄附金」のご案内

この寄附金は、自分を育ててくれた「ふるさと」を応援したいという思いを寄附というカタチで表していただくもので、「自然環境の保全」や「子どもの育成」、「地域の活力増進」などに活用されます。

寄附先は福島県及び各市町村で、5,000円以上寄附された方は住民税が軽減されます。

多くの皆さんからの応援をお待ちしております。

詳しくは、福島県北海道事務所までお問い合わせください。

（電話011-241-8719）